

機関番号：25201

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23820042

研究課題名(和文) コーパスに基づく『元朝秘史』モンゴル語漢字音訳方式の研究

研究課題名(英文) A Corpus-based Study of the Transcription Rules of Chinese characters for Mongolian in the *Secret History of the Mongols*

研究代表者

孟達来(Möngkedalai)

島根県立大学・総合政策学部・助手

研究者番号：40609913

研究成果の概要(和文)：

『元朝秘史』のモンゴル語と音訳漢字の対応関係を反映したパラレルコーパスに基づき、音訳におけるモンゴル語音と漢字との対応を網羅的に考察し、「音対応」の規則、「特殊表記」の規則、「音以外要素の関与」の規則を含めた音訳規則を導出した。また、音訳において成り立つモンゴル語音と漢字との全807種類の対応関係を同値類に分けて考察し、音訳漢字一つ一つの機能・役割を確認し、『元朝秘史』における漢字音訳方式の全体像の把握に努めた。

研究成果の概要(英文)：

Based on the Parallel Corpus for the correspondence relations between the Mongolian language and the Chinese characters appeared in the transcribed version of the *Secret History of the Mongols*, this study has comprehensively researched the correspondence between Mongolian sound and Chinese character in the transcription, and derived the transcription rules which include the regulations of the 'Correspondence of Sound', the 'Special Transcription', and the 'Involvement of the Features other than the Sound'. On the other hand, this study has examined 807-kinds of corresponding relations between Mongolian sound and Chinese character formed in the transcription. Meanwhile, it confirmed each function of Chinese character transcription and tried to grasp an overall perspective of formulas of Chinese character transcription in the *Secret History of the Mongols*.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	1100,000	330,000	1430,000
2012年度	900,000	270,000	1170,000
年度			
年度			
年度			
総計	2000,000	600,000	2600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：元朝秘史、コーパス、モンゴル語、漢字音訳

## 1. 研究開始当初の背景

漢字音訳とは、歴史上、漢語の周辺諸言語の表記に長らく用いられてきた表記方式である。漢字音訳によって、少なくとも1000

年以上に亘って、様々な言語の文献が成立しているが、その言語学的意味を解明するには、まず漢字音訳方式を明らかにしなければならない。こうした研究にとって、典型的な意

味を持つのが中国の明朝時代に漢字で音訳された『元朝秘史』である。

『元朝秘史』の原本は『モンゴル秘史』と呼ばれる、チンギス・ハーンの一代記を中心にまとめられた文献であり、13世紀にモンゴル文字で書かれたとされる。しかしモンゴル文原典が伝わらず、現存するのは14世紀後半に漢字で音訳され、『元朝秘史』と名付けられた文献である。言語学的観点から見ても、この文献が成立当時のモンゴル語と漢語の研究にとって、極めて重要な文献となるだけでなく、漢字表記（音訳）方式の研究にとっても貴重な資料と考えられる。

『元朝秘史』におけるモンゴル語の音訳漢字に関して、服部四郎(1946)は、漢語韻書を参考にして、『元朝秘史』のモンゴル語を表す漢字を研究し、漢字音の推定を行っている。Halliday (1959)は、『元朝秘史』の漢訳に用いられたのが白話文であること、そしてその白話文が今の北京語の古い形式であると指摘し、北京音を参考にして漢語音の推定を行っている。

一方、陳垣(1934)は、漢字が本来もっている意味の音訳への関与を指摘する。また、栗林均(2006)は、音訳漢字の書き分けの原則には、漢字の意味が関与している点について明らかにした。

しかし、先行研究においては、『元朝秘史』における音訳漢字の音推定と、漢字の一部の要素の音訳への関与だけが扱われており、漢字の全要素の観点からの音訳への考察は行われておらず、漢字音訳の全ての規則が明確にはなっていない。

研究代表者は、2005年以降、『元朝秘史』のモンゴル語と音訳漢字のパラレルコーパスの構築に取り組み、漢字一字の単位で、漢字とモンゴル語の対応関係を含めたパラレルフルテキストコーパスを作成し、音訳における一部の現象について考察してきた。

コーパスに基づくデータ集計によれば、『元朝秘史』において、581種類の漢字によって376種類のモンゴル語音が表記され、全807種類の音対応を形成し、延べで30202語（モンゴル語）が音訳されている。

また、考察の結果、同じモンゴル語音の表記に、一つの漢字に限らず、幾つかの漢字が用いられる「モンゴル語：漢字=1:N」という対応関係が数多く存在することが分かり、その理由は、漢字の音だけでなく、音以外要素も音訳へ関与したことにあるという認識を得た。

そこで、本研究では、自作した『元朝秘史』のモンゴル語と音訳漢字のパラレルコーパスに基づき、漢字の「音」と「意味」の全ての要素が音訳へ関与可能であるといった基本仮説に沿って、音訳において現れるモンゴル語音と漢字との対応関係を徹底的に考察

し、且つ用例の中での検証を行い、音訳における音対応の規則、特殊表記の規則、音以外要素の関与の規則等を明らかにし、更に『元朝秘史』におけるモンゴル語漢字音訳方式の全体像の解明を試みる。

## 2. 研究の目的

(1) 『元朝秘史』の音訳における漢字の音表記規則を明らかにする。漢語の伝統的な音韻学においては、漢字一字の音が「声母・韻母／声調」に分けられる。漢字音訳が、伝統音韻学の概念のもとで行われていたと考えられるため、音表記規則を探る際に、まず、漢字の「声母・韻母」といった概念に沿って考察しなければならない。そこで、本研究では、まず「声母」と「韻母」の音表記上の動きに着目し、その規則性を探る。また、音訳において漢字声調がどのような動きをしているかについて検証を行い、漢字声調による音訳への関与の可能性について考察する。

(2) 『元朝秘史』の音訳における漢字の「意味」の要素の関与規則を明らかにする。漢字の「意味」の要素には「字義」「意符」「品詞」がある。先行研究において、漢字の「意味」の要素による音訳への関与が確認されたが、本研究では、漢字の「意味」の全要素の音訳への関与について検証を行い、漢字の「意味」の諸要素による音訳規則を明らかにする。

(3) 音訳における「音表記」と「音以外要素の関与」の相関関係を明確にし、且つ両者が全音訳過程においてどのような位置づけにあるのかを明らかにし、更に『元朝秘史』モンゴル語漢字音訳方式の全体像を解明することを旨とする。

## 3. 研究の方法

### (1) データ抽出と分析

『元朝秘史』におけるモンゴル語の漢字音訳方式を漢字の「音の要素」と「音以外の要素」の観点から考察する際には、「音レベルでの対応関係を含むデータ」と「文節レベルでの対応関係を含むデータ」が必要となる。これらの精密データを得るには、漢字一字の単位で、漢字と音訳された語との対応関係を含めたパラレルコーパスが必要となる。そこで本研究では、まず『元朝秘史』のモンゴル語と音訳漢字のパラレルコーパスから研究の目的に沿ったデータを網羅的に抽出し、整理する。

### (2) 音訳への検討と音訳方式の解明

①抽出し整理したデータに対して比較分析を行い、音訳において成り立つ全ての対応関係を見つけ出して分類する。

②先行研究を参照し、音訳当時のモンゴル

語音と漢字音を推定したうえ、コーパスのデータとの比較分析を行い、「音対応」の規則と「特殊表記」の規則を導出する。また、「音以外要素の関与」についても検証を行い、その規則をまとめ上げる。

③音訳漢字一つ一つを用例の中で分析し、全音訳漢字の機能・役割を確認する。

最終的に、『元朝秘史』におけるモンゴル語漢字音訳方式の全体像を解明する。

#### 4. 研究成果

本研究の主な成果は、『元朝秘史』における音訳規則の導出と、全音訳漢字の機能・役割の確認といった二つの部分に分けられる。

##### (1) 音訳規則の導出

『元朝秘史』の音訳におけるモンゴル語音と漢語音の対応関係を網羅的に分析し、音対応規則を導出した。音対応の分析の際に、音訳において、漢字によるモンゴル語音の表記は漢語の伝統的な音韻学の「声母・韻母」という概念のもとで行われたこと、且つモンゴル語の音節末子音の表記に「特殊表記」が用いられたことなどを考慮して、音対応を「声母対応」「韻母対応」「末子音対応」の三つのカテゴリに分けて分析を行った。また、音対応の近似度を考慮に入れて、音対応を相対に「一致対応」と「近似対応」という二つのカテゴリに分けて扱うことにした。結果として、次の「音対応」の規則をまとめ上げた。

「声母対応規則」は全7種類であり、そのうち、「一致対応」による規則は1種類、近似対応による規則は6種類である。「韻母対応規則」は21種類であり、そのうち、一致対応による規則は1種類であり、近似対応による規則は20種類である。「末子音対応規則」は全7種類であり、そのうち、一致対応による規則は2種類、近似対応による規則を5種類である。なお、「音対応」の規則の中に「特殊表記」による規則を含めてまとめた。

また、モンゴル語音節末子音の表記に入声漢字がよく使われる傾向があることを確認し、音訳へ漢字声調が関与している可能性について検証できた。

「音以外要素の関与」の規則に関しては、音訳において成り立つモンゴル語と漢字の対応関係の中から、音訳における音以外要素の関与について、①漢字の個義(意味)をモンゴル語語幹意味に合わせるケース、②漢字の意符をモンゴル語の語幹の意味に合わせるケース、③漢字の個義(意味)をモンゴル語の接尾辞に合わせるケース、④特定の漢字をモンゴル語の特定の語形に用いるケースの4種類分けてまとめることができ、且つこれら4種類の音訳手法を各々規則としてまとめ上げた。

##### (2) 全音訳漢字の機能・役割の確認

《元朝秘史》における音訳漢字の使用状況を用例の中で分析し、全音訳漢字の機能・役割を確認した。自作のコーパスに基づく分析によれば、『元朝秘史』において、全581種類の音訳漢字で376種類のモンゴル語音が表記され、全807種類の音対応が形成している。これら807種類の対応関係を「同じモンゴル語音に対応する漢字」と、「同じ漢字に対応されるモンゴル語音」という視点から、「モンゴル語音：漢字」=「1：1」「N：1」「1：M」「N：M」という4つのカテゴリに沿って分類した。このうち、「モンゴル語音：漢字=1：1」対応は102種類、「モンゴル語音：漢字=N：1」対応は22種類、「モンゴル語音：漢字=1：M」対応は52種類、「モンゴル語音：漢字=N：M」対応は74種類である。

なお、これら807種類の対応の分析において、まずは、単純な対応である「モンゴル語音：漢字」の「1：1」対応と「N：1」に関して、導出した音対応の規則を用いて、一つ一つの音対応を逐次に確認した。次には、「モンゴル語音：漢字=1：M」の52種類の対応に関して、用例を用いた分析を行い、音訳漢字の使い分けを確認した。更には、多項目の対応を成す「モンゴル語音：漢字=N：M」の74種類の対応に関して、対応のセットごとの相互関係を示したうえ、具体例を用いて分析を行い、音訳漢字一つ一つの機能・役割を明らかにした。その結果、漢字音訳方式を基本音対応、意符、字義、文法的用法、末子音対応における声調関与、特定用字、巻毎の偏在、誤用など想定できるほぼすべての要因で全807種の対応関係を分類することにより、漢字音訳方式の全体像を解明しようとした。

本研究の特色は、漢字音訳の検討において、漢字の「声母」と「韻母」だけでなく、モンゴル語音節末子音の表記に漢字の「声調」が関与された可能性も考慮に入れて検討し、且つ、漢字の「字義」「意符」を含めた諸要素の音訳への関与について検討を行い、全ての音訳規則を導出しようとしたことにある。また、漢字一字の単位で、漢字とモンゴル語の対応関係を含めたパラレルコーパスを利用して、音訳におけるモンゴル語と漢字の全対応関係のデータを網羅的に分析し、音訳方式の全体像を解明しようとしたことも、本研究の特色と言えよう。

本研究の成果により、音訳当時のモンゴル語音の実態と漢字音の実態への理解を深めることができる。また、本研究のもう一つの目的は、研究を通じて得られた方法論と成果により、漢字音訳の研究に新しい方向性を与えることである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

孟達来, 『元朝秘史』のモンゴル語漢字音訳における特殊表記方式について—『元朝秘史』四部叢刊本に基づく考察—, 『北東アジア研究』第 24 号, 2013, pp. 61-88, 査読有。

[その他]

① 孟達来, 学位論文, 博士 (学術), 『元朝秘史』モンゴル語漢字音訳方式の研究, 東京外国語大学, 2012 年 6 月。

② 孟達来, 研究活動紹介, NEAR News, 第 41 号 pp. 6~7, 島根県立大学北東アジア地域研究センター, 2012 年 3 月。  
(<http://hamada.u-shimane.ac.jp/research/organization/near/42news/index.data/NEARNews41.pdf>)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

孟達来 (Möngkedalai)

島根県立大学・総合政策学部・助手

研究者番号: 40609913